

◆国家公務員宿舎の建設

【現状】

国家公務員宿舎については、平成23年12月に策定された「国家公務員宿舎の削減計画」において、真に公務のために必要なものに限定され、約21.8万戸から約16.3万戸まで宿舎戸数を削減し、平成25年以降、合同宿舎の建設は抑制してきたところ。

現状、

- (1) 地域ごとの宿舎需給のミスマッチが著しく、特に東京23区内の宿舎が大幅に不足
 - (2) 独身者・単身者用宿舎が不足
 - (3) 既存宿舎の老朽化が著しく進んでいる
 - (4) 緊急参集要員のための宿舎を確保する必要
- という課題が、令和元年6月の財政審答申などにおいて指摘されている。

【建設計画の概要】

建設予定地 : 東京都葛飾区小菅1丁目（東京拘置所西側・現公務員宿舎敷地）

敷地面積 : 54,190㎡の一部

最寄り駅 : 東武スカイツリーライン小菅駅

計画規模 : RC14階446戸

（独身者用222戸、単身者用100戸、世帯者用124戸）

R5予算案計上 : アドバイザリー経費約9百万円（2カ年国庫債務負担行為）を計上。

※ 本計画はPFIにより建設する予定。整備費用は、見合いとなる既存宿舎を廃止し処分収入を充てることにより、実質的に新たな国民負担を伴わないものとしている。

※関係各位との調整により、計画規模に修正の可能性がある。